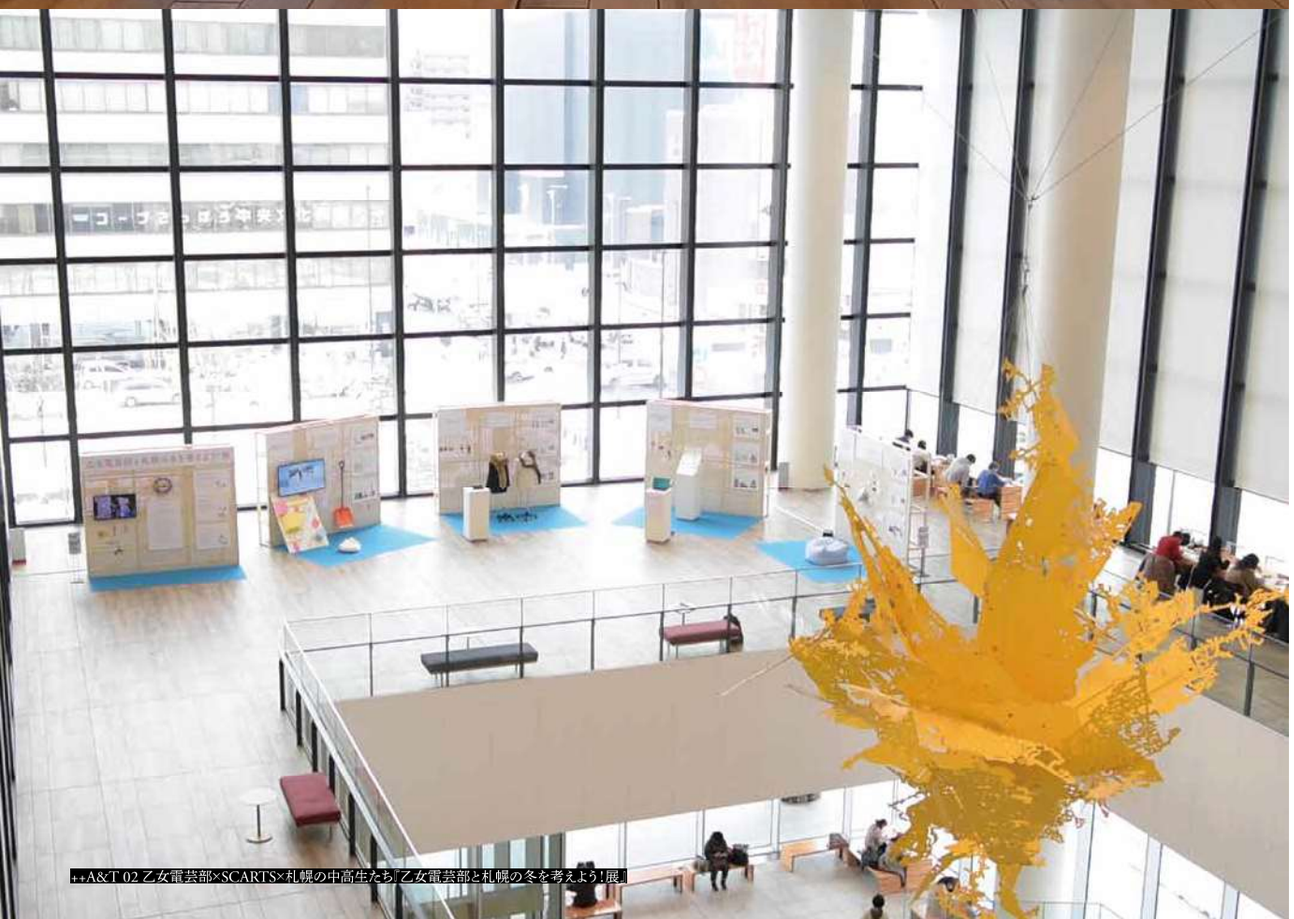
++A&T 01 三宅唱×SCARTS×札幌の高校生たち『7月32日 July 32, Sapporo park.』



++A&T 02 乙女電芸部×SCARTS×札幌の中高生たち『乙女電芸部と札幌の冬を考えよう！展』

++A&T—SCARTS ART & TECHNOLOGY Project—（プラプラット）

「テクノロジー」を共有してつくる、創作の場

++A&T—SCARTS ART & TECHNOLOGY Project—（プラプラット）は、アーティストや研究者、SCARTS、そしてワークショップ等に参加してくれる中学生・高校生らと共に、創作する「場」をつくっていくプロジェクトです。毎回「テクノロジー」に関わるテーマを設定し、コラボレーションを行っています。

参加する中高生は、ワークショップを通して作品制作の一部を担います。彼らは、自分たちが関わり制作したものが、さまざまな行程を経て作品として成立し、発表されるまでを体験する中で、アイデアが形になっていく面白さや、創作活動においてテクノロジーが用いられることの意味や意義、作品が立ち上がる際の背景などを理解していきます。彼らのような若い世代が、メディアアートやそれを支えるテクノロジーをより身近に感じ、創造的に用いていくきっかけとなることを目指して、今後も継続していくプロジェクトです。

2019年度は、「映像」と「電子工作」のふたつのテーマでプログラムを行いました。

ワークショップの様子。映画の演出について実際に動きながら試してみる

シナリオを読みながら、ストーリーを組み立て、演出を検討する

ロケハン。どういうシーンにするのかをチームで考える

撮影に使うのはスマートフォン

カメラ、監督、役者。それぞれの役割分担を決めて撮影する

++A&T 01
三宅唱×SCARTS×札幌の高校生たち
『7月32日 July 32, Sapporo park』

++A&T 01 Sho Miyake & SCARTS & High school students

三宅唱(映画監督)
秋山航也、池田エミリ、岩間航平、大橋美空、小笠原勁、佐々木力也、柴田亜莉彩、順毛悠斗、鈴木友萌、富樫健太、吉野颯真

「映像」をテーマに、札幌出身の映画監督・三宅唱を講師として迎え、開催しました。冬の展覧会に向けて、高校生とどのような作品を共につくっていくのか、彼らが映像の面白さを発見し、そこで得たものを作品に反映させるにはどのような仕掛けが必要かと検討し、プログラムを組み立てました。

［**ワークショップ**］

ワークショップ①「映画のワンシーンを監督してみよう!」

日時 2019年7月29日(月)〜8月1日(木) 10:00〜18:00
会場 SCARTSスタジオ1、大通公園、創成川公園
参加費 無料
講師 三宅唱(映画監督)
対象 高校生

作品制作に関わる高校生を対象にしたワークショップ。

ワークショップ②「映画のワンシーンを監督してみよう!」

日時 2019年12月7日(土)〜8日(日) 10:00〜18:00
会場 SCARTSスタジオ
参加費 無料
講師 三宅唱(映画監督)
対象 一般

展覧会会期中に開催した、一般参加可能なワークショップ。

夏まっさかりの7月末、札幌の高校生参加者と共に4日間にわたる映画制作のワークショップを行いました。使用したのは、今では最も身近なカメラだといえる、スマートフォン内臓のカメラです。三宅が用意したシンプルなシナリオをもとに、どのように物語を設定し、どのようなカットで見せるか、演出するかなど、映画の手法の面白さを体感したあと、お互いに監督・役者・カメラマンと役割を交替しながら、それぞれが監督となったオリジナルのショートムービーを制作しました。4日間のワークショップの間にさまざまな発見をしながら制作を進めていった彼らは、展覧会会期中に開催したワークショップで、今度は自分たちがファシリテーターとなり、参加者をサポートしました。自分が体験したことを人に伝え、教える立場になるという経験は、彼らの中にどのように残っていくのでしょうか。

撮影した映像を編集していく

4日間のワークショップを振り返る

三宅唱監督スペシャルナイトでのトーク

夏のワークショップ以来、4カ月ぶりの高校生たち

++A&T 01 三宅唱×SCARTS×札幌の高校生たち『7月32日 July 32, Sapporo park』　窓側には椅子が置かれ、休憩もできるようになっている

［展覧会］

++A&T 01 三宅唱×SCARTS×札幌の高校生たち『7月32日 July 32, Sapporo park』

会期　2019年11月28日（木）～12月15日（日） 10:00～19:00
会場　SCARTSモールC
入場料　無料
主催　札幌文化芸術交流センター SCARTS（札幌市芸術文化財団）
後援　札幌市、札幌市教育委員会
協力　市立札幌大通高校、市立札幌藻岩高等学校、シアターキノ

ディレクション・撮影・編集　三宅唱
出演・撮影　秋山航也、池田エミリ、岩間航平、大橋美空、小笠原勁、佐々木力也、柴田亜莉彩、順毛悠斗、鈴木友萌、富樫健太、吉野颯真

テクニカルディレクション　岩田拓朗（札幌文化芸術交流センター SCARTS）
システム開発　船戸大輔（アートフル）、清水康志、日下貴詞
サウンドデザイン　櫛引康平
テクニカルスタッフ　神坂知春、福津圭佑（いずれも札幌文化芸術交流センター SCARTS）
ワークショップコーディネート　渡部智穂（札幌文化芸術交流センター SCARTS）
ワークショップファシリテーター　近藤亮太、千村聡美、笹森匠海
インスタレーションコーディネート　小山冴子（札幌文化芸術交流センター SCARTS）

夏のワークショップで高校生が制作したショートムービーと、三宅による彼らのポートレートや札幌の風景と音によるインスタレーション。モニターの前に置かれたスマートフォン端末を手にとると、端末には高校生によるショートムービーが再生され、端末を置くと入れ替わるようにモニターに映像が現れます。モニターには三宅の撮影した札幌の風景や、夏の間の高校生たちのポートレートが映り、会場にはどこからかセミの鳴き声や水のせせらぎの音が聞こえ、窓の外の吹雪く風景に反して、SCARTSモールCにはあるはずのない夏の公園が現れました。

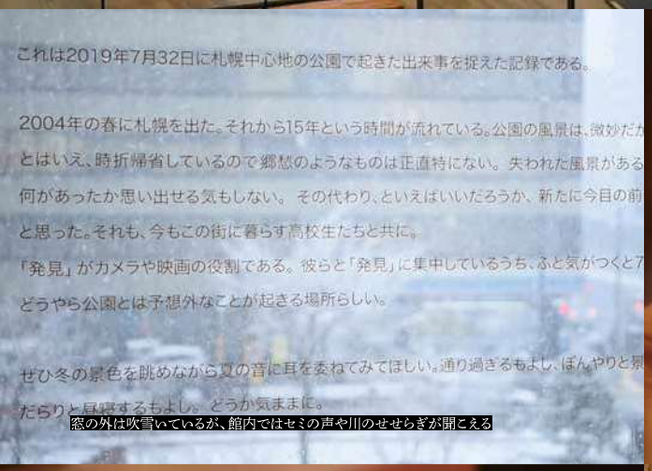
［関連イベント］

三宅唱監督スペシャルナイト『ワイルドツアー』『きみの鳥はうたえる』上映&三宅監督トーク

日時　2019年11月29日（金） 18:45～22:15
会場　シアターキノ
料金　一般前売1,500円（当日1,800円）、キノ会員前売1,200円（当日1,500円）
共催　シアターキノ

山口市で実施された滞在型映画制作プロジェクトにて、三宅唱が地元の中高生と共に完成させた映画『ワイルドツアー』（札幌初公開）と、函館を舞台に、3人の若者が過ごすかけがえのない日常を捉えた映画『きみの鳥はうたえる』の同時上映イベントを、シアターキノとの共催で開催しました。上映後には三宅による舞台挨拶も行いました。

++A&T 01 三宅唱×SCARTS×札幌の高校生たち『7月32日 July 32, Sapporo park』



窓の外は吹雪いているが、館内ではセミの声や川のせせらぎが聞こえる

スマートフォンを手にとると、中高生の制作したショートムービーが再生される

スマートフォンを置くと、モニターに映像が現れる

モニターには三宅の撮影した札幌の風景や中高生の表情が映る

これは2019年7月32日に札幌中心地の公園で起きた出来事を捉えた記録である。

どうやら公園とは予想外なことが起きる場所らしい。思い返せば2000年、大通公園でデートをしていたらその一部始終を友人たちに目撃されていて恥ずかしかった。2001年、朝一の回で映画館に行き、大通公園のベンチでお昼を食べていたら婦警に補導され、映画の余韻が台無しになった。2002年サッカー W杯の年、大通り公園で友人とボールを蹴っているとアルゼンチン人とイングランド人のサポーターが混ざってきたので楽しく遊んでいたら、その姿が夕方のニュースで流れ、授業をサボっていたことがバレた。

2004年の春に札幌を出た。それから15年という時間が流れている。公園の風景は、微妙だが決定的に変わっている。とはいえ、時折帰省しているので郷愁のようなものは正直特にない。失われた風景があるはずだが、かつてそこに何があったか思い出せる気もしない。その代わり、といえばいいだろうか、新たに今目の前にある風景を発見しようと思った。それも、今もこのまちに暮らす高校生たちと共に。「発見」がカメラや映画の役割である。彼らと「発見」に集中しているうち、ふと気がつくと7月32日に突入していた。やはり公園では予想外なことが起きる。

とにかく、たしかにこんな一日が存在した。そしてこんな日は二度とやってこないだろう。ビデオを回していたおかげで「7月32日の高校生」が記録できた。ラッキーだ。

※　※　※

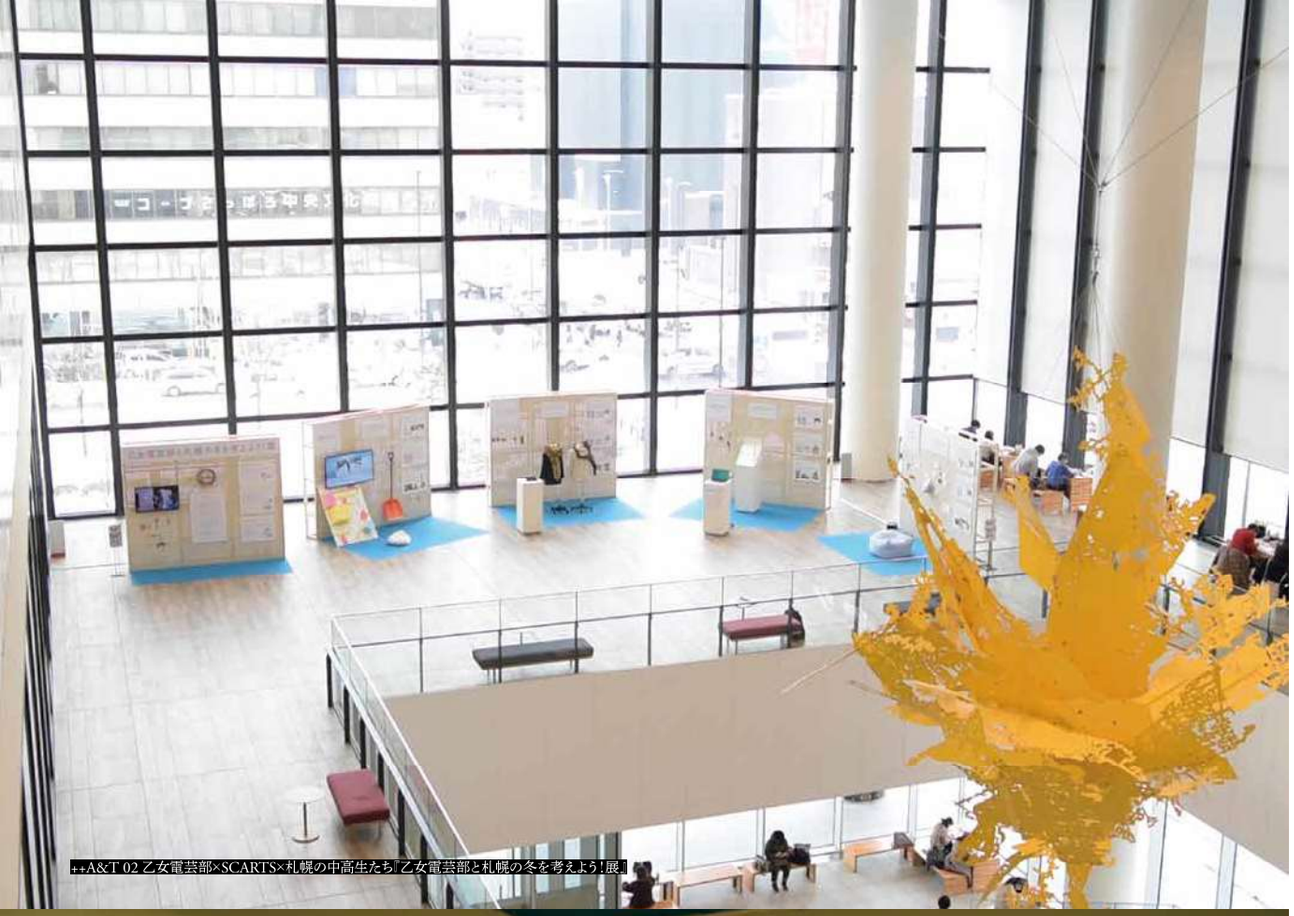
SCARTSモールに出現するインスタレーション空間に一歩足を踏み入れれば、「7月32日の公園」にタイムスリップすることができる、はず。この公園は世界中のあらゆるところで出現する可能性があるが（まるで100年に一度だけスコットランドの霧の中に出現するという幻の村「ブリガドーン」のように、あるいは日本昔話で語られる山奥の謎の村のように）、SCARTSでの出現はこの期間1度きりだ。大きな窓の外にひろがる冬の景色も、この作品の一部だと言いたい。ぜひ窓際に立って、冬の景色を眺めながら夏の音に耳を委ねてみてほしい。きっと、幻の公園にトリップできる。

※　※　※

ここは公園だから、通り過ぎるもよし、ぼんやりと景色を眺めるもよし、だらりと昼寝するもよし。ぜひデートスポットにしてもらいたいとも思う。公園は誰のものでもあり、誰のものでもない。どうか気ままに。

三宅唱

1984年札幌市生まれ。映画監督。2018年、函館を舞台にした映画『きみの鳥はうたえる』を監督。同作はベルリン国際映画祭に正式出品されたほか、主演の柄本佑がキネマ旬報主演男優賞、毎日映画賞男優主演賞などを受賞。また同年、山口情報芸術センター［YCAM］との共同制作で初のビデオインスタレーション作品『ワールドツアー』と、山口市内の中高生と共に制作した劇映画『ワイルドツアー』を発表した。



++A&T 02 乙女電芸部×SCARTS×札幌の中高生たち『乙女電芸部と札幌の冬を考えよう！展』

アイデアソンからワークショップ、そして展示までを同じメンバーで行った

++A&T 02
乙女電芸部×SCARTS×札幌の中高生たち
『乙女電芸部と札幌の冬を考えよう!展』

++A&T 02
Otome Dengeibu
Junior high & high school students

乙女電芸部

安藤翔琉（かける）、大泉桃子（モモコ）、大瀬唯華（ヴィクトリア）、川原優里（ミカル）、熊崎匠吾（くま）、佐々木ハナ（ハナ）、髙木悠冴（ゆうご）、土田心栞（みかん）、小柳凌空（りく）

「電子工作」をテーマに、「毎日がちょっと楽しくなる『自分のためのものづくり』」を合言葉に活動しているDIYグループ・乙女電芸部を講師として迎え、開催しました。はじめて訪れる札幌の冬やその暮らし方に興味を持った乙女電芸部は、中高生と共に、札幌の冬を楽しく過ごすための装置をつくることを検討。アイデアソンとワークショップ、そして展覧会までを同じメンバーで行うことにしました。

冬の嫌なところ／好きなところを書き出し、分類する

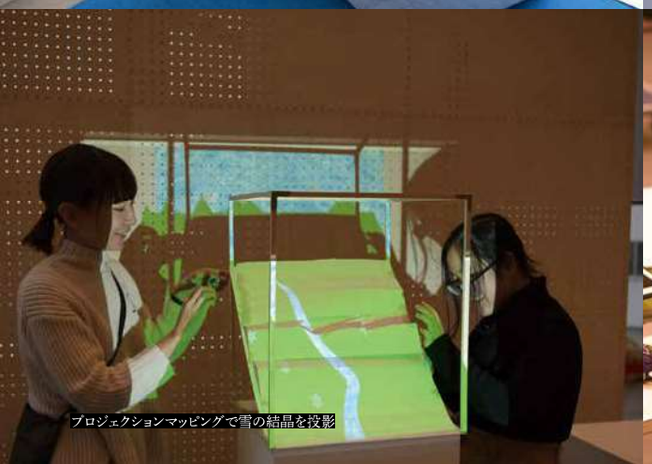
冬を楽しくするための道具のスケッチ

段ボールで1/1プロトタイプをつくる

それぞれのアイデアを発表

選んだ素材や機器を使って、形にしていく

完成したものを実際に試してみる


プロジェクションマッピングで雪の結晶を投影

キツネのマフラーに基板を縫い付ける

［ワークショップ］

++A&T 02 乙女電芸部
ワークショップ①「アイデアソンとミニワークショップ」

日時　2019年9月23日（月・祝） 10:00〜17:00
会場　SCARTSスタジオ
講師　乙女電芸部

札幌の暮らしについて意見交換をしながら、冬を楽しくするための道具を考え、段ボールを使って実物大の試作品をつくりました。アイデアを共有し、手を動かしながら、実機の制作にはどういう素材や仕組みが必要かを検討していきました。参加者は4つのチームに分かれ、年明けの次のワークショップまでは乙女電芸部のメンバーとコミュニケーションアプリ「Slack」でやりとりをしながら、準備を進めることになりました。

ワークショップ②「展示制作のためのワークショップと展覧会づくり」

日時　2020年1月6日（月） 10:00〜17:30
会場　SCARTSスタジオ
講師　乙女電芸部

初回のワークショップでつくった試作品を実機としてアップデートするために、必要な素材を郵便でやりとりしたり、乙女電芸部からプログラム制作のためにコードの組み方やソフトを教えてもらったりと、さまざまに準備をしてきた中高生たち。2日後に始まる展覧会に向けて作品をブラッシュアップしながら、展示会場での設営作業を行いました。

［展覧会］

++A&T 02 乙女電芸部×SCARTS×札幌の中高生たち
『乙女電芸部と札幌の冬を考えよう!展』

日時　2020年1月8日（水）〜2月11日（火・祝） 10:00〜19:00
会場　SCARTSモールC
入場料　無料
主催　札幌文化芸術交流センター SCARTS（札幌市芸術文化財団）
後援　札幌市、札幌市教育委員会

ワークショップデザイン・展覧会ディレクション　乙女電芸部
テクニカルディレクション　岩田拓朗（札幌文化芸術交流センター SCARTS）
テクニカルスタッフ　神坂知春、福津圭佑（いずれも札幌文化芸術交流センター SCARTS）
コーディネート　小山冴子（札幌文化芸術交流センター SCARTS）

2回のワークショップと、その間の準備期間でのやりとりを経て完成した作品を展示。4チームそれぞれに分かれたブースには、制作した実機と共に、「ブレインストーミング」「アイデアスケッチ」「1/1プロトタイプ」の解説のパネルや制作に使った電子パーツ、工具類も展示され、試行錯誤のプロセスが見えるものとなりました。作品は実際に手にとって動かし、楽しむことができました。

チームごとのブースに、制作プロセスと共に展示

《雪量カウンター》 使用方法や仕組みを映像でも紹介した

《パルマフラー》 触れることで、ヒーターが起動する

《cycle of snow》 オリジナルの雪の結晶を作成することができる

《SNOW Feeling》 座って体験することができる

［作品紹介］

《雪量カウンター》 チーム：SNOWLIVE　メンバー：ミカル、モモコ
若い人がすすんで雪かきをしたくなる仕組みをつくろうと、実際にかいた雪の量を計算できるメーターのついたスコップと、それを地域のお店で使えるポイントに換算する仕組みを考えました。もらえるポイントは、地域への貢献度によっても変動するというアイデアです。

《パルマフラー》 チーム：animal　メンバー：ハナ、ヴィクトリア
体を温めてくれるはずのマフラーが凍ってしまうという札幌の冬ならではの問題と、冬のかわいい野生動物と触れ合いたいという妄想をかけあわせ、冬の動物たちが温めてくれるきつねのマフラーと子グマのコートを開発しました。きつねのマフラーは、首に巻くときつねがブルブル震えて、ヒーターによって発熱します。子グマのコートは羽織るとヒーターで温めてくれ、小グマの首が揺れます。

《cycle of snow》 チーム：愉快なUnknown　メンバー：みかん、かける、ゆうご
雪が降り、解けて地面に染み込み、また雲になって雪が降る……そんな雪の循環を体感し、雪を好きになってもらえるように、来場者がそれぞれの「オリジナルの雪の結晶」をつくることのできるアプリの開発を行いました。できあがった雪の結晶は、ジオラマに投影され、眺めて楽しむことができます。

《SNOW Feeling》 チーム：White Maker　メンバー：りく、くま
ふわふわのさわり心地や踏みしめるとサクサクと鳴る雪の特徴を見つめ直し、雪の楽しい要素を室内でも楽しめるようにと、触ったり座ったりすると雪を踏みしめる音がするクッションを開発しました。クッションの形状変化によって中に仕込まれたセンサーが反応し、外のスピーカーから雪を踏みしめる音がします。

乙女電芸部

2010年に慶應義塾大学SFCで結成したDIYグループ。「毎日がちょっと楽しくなる『自分のためのものづくり』をしよう！」を合言葉に、手芸と電子工作を組みあわせた「テクノ手芸」をベースにさまざまな作品を制作。これまでの手芸や工作に電子工作をプラスすることで広がる『自分のためのものづくり』の可能性を伝えるため、全国で出張ワークショップを開催している。